木谷自治協議会広報紙

第　56 号　（隔月発行）
令和４（2022）年４月１日
編集：木谷自治協議会事務局

豊潤の里 だより

栗本本社へ直訴！！

～ 有志16名、反対決意書を提出 ～

決 意 書（一部抜粋）

「美しい海、豊かな自然を次の世代に受け継ぎ、地域住民の安寧な生活を守っていきたいだけなのです。この赤崎の地で静かに馬鈴薯を作っていたいだけなのです。そのために、多くの住民と力を合わせ、毅然と粘り強く処分場建設に反対していくことを、ここに決意致します。」

（ 産廃処理施設反対実行委員会長 ）

木谷自治協議会の 16 名は 3 月 11 日 14 時 30 分、栗本ホールディングス本社駐車場（広島市西区南観音）にいた。産廃処分場建設反対の決意書を、栗本 HD 社長に手渡すためである。反対決意書を渡す前に、参加者全員で決起集会をもった。その目的は、反対決意書に記されている内容を共有し、その思いをひとつにするためである。反対決意書は２通で、１つは産廃処理施設反対実行委員会 大田一夫会長のもの、もう１つは木谷自治協議会 尾首 豊会長のものである。それぞれの立場での思いや願いが熱く綴られている決意書である。

残念ながら大田会長は体調悪く欠席であったが、その大役を大成秀和氏（赤崎在住）に務めていただいた。栗本本社玄関にて両決意書が参加者の前で読み上げられた。１０分程の時間であったが長く感じた。両氏の決意書をもつ手が小刻みに震えていたことからも、産廃阻止に向けた責務の重たさを感じた。

参加者全員の力強い拍手に背中を押され、代表者３人は社屋の中へ入った。コロナ禍のため入室は３人までとなっていた。小島隆司取締役社長は所用で不在との事前連絡を受けていたので、平野取締役事業統括部長、広瀬営業部長、そして坪内地域創生課長の前で決意書を読み、手交することができた。

帰路車内では、参加者の率直な思いを交流することができ、「研修に参加して良かった」との声も多く聞かれた。栗本 HD に処分場を建設させないため、ここに参加された一人一人が「地域の核」となり、地権者をはじめ**多くの住民を孤立させないようつないでいくことを確認した。**赤崎に処分場を造らせないために声を掛け合って頑張りましょう。

（コラム）歴史から知恵を学ぶ　第８話
木谷から誕生した松竹映画女優

元木谷自治協議会会長　植野洋文（西之谷在住）

「東谷映子」さんのプロフィール

昭和９年呉市に生まれる。

※昭和20年、軍港基地であった呉では、5／5 広工廠(こうしょう)空襲、6／22 呉海軍工廠空襲、さらに 7／1～7／2 にかけて市街空襲(呉市史上最悪の火災により、12万5千もの家が失われ 1949 人が犠牲に)。7／24･28 呉軍港と連続して米軍機の空襲を受けた(毎日新聞社編「1 億人の昭和史」より）。

工廠とは･･･旧陸海軍に所属し、兵器･弾薬などの軍需品を製造･修理した工場

東谷一家は、空襲を恐れ、知り合いの方を頼りに、職工(窯炊き)技術を活かして煉瓦工場のある木谷の地に疎開してこられたと推察される。

昭和２０年７月　疎開で、呉の吾妻国民学校から木谷国民学校初等科６年へ転入学。

昭和２１年３月　卒業。　住居は木谷中国煉瓦社宅(父親の仕事の関係)

昭和２１年４月　広島女高師付属山中高女(安浦町)入学　昭和２５年３月卒業

昭和２５年４月　松竹入社。女優となる。

幸運の新人東谷映子（朝日新聞 昭和２７年１０月１６日）

松竹に入社してほどなく「伊豆の艶歌師」「母は叫び泣く」などで、小さな役をやっていた新人東谷映子は、近く封切られる野崎正郎監督「花咲く我が家」に初の大役をふりあてられた。この作品は井原敏原作≪汽車の家≫によるもので、親子兄弟妹そろって鉄道の仕事にたずさわる一家の仕事への熱情と家族愛を描いたものである。彼女はこの中で妹の役をやっているが、これは彼女がスターにのし上がるか否かのテスト・ケースになるわけだ。彼女は広島県呉市生まれ、広島女高師付属高女在学中にロケに来た中村登監督に認められ、卒業後直ちに撮影所に入った幸運児である。

新聞に載ったブロマイド写真

これらの記録は、木谷国民学校時、東谷映子さんを担任された勝谷先生が残されたものである。田舎の町から女優誕生と世間を賑やかした。映子さんの映画を見ている人は多いが、美人であったことには間違いない。昭和２８年東谷家は、東京に引っ越された。その後の様子については定かではない。

筆者のエピソード　木谷中国煉瓦工場の付近住民を始めとして、安芸津町中に話題が広まり、当時の映画館であった「祇園座」には、出演される映画が上映されると聞いて、多くの観客がつめかけた。私も小学校４年生だったと思うが、家や近所の方々に連れられて、大勢で見に行った。その作品には、主役ではなく脇役での出演だったが、映し出される度に、その姿に見とれ、みんなの拍手と歓声が渦巻いたのを記憶している。

自治協の研修でふたつの施設を視察

3/11　木谷自治協議会では、東広島市上三永の「広島中央エコパーク」と広島市南区出島四丁目の「広島港出島地区廃棄物等埋立処分場」を見学する研修を行い、関係者１６名が参加しました。

（１）広島中央エコパーク（事業主体：広島中央環境衛生組合）　　令和３年１０月開業

写真中央は東広島市・竹原市・大崎上島町で発生する「燃やせるごみ等」を最高１８００℃で処理する施設です。その過程で発電したり、再資源化もおこなっています。写真左側は東広島市・竹原市から出る「し尿・浄化槽汚泥」を処理する施設です。副産物として発電施設で使用する助燃材ができます。この広島中央エコパークは最終処分量がゼロになる先進的な施設です。循環型社会実現のための拠点になる施設でもあります。また環境学習にも役立てるため見学者通路が作られており、実際の処理工程を見たり分かりやすく解説したパネルで学習することができます。

（２）広島港出島地区廃棄物等埋立処分場（事業主体：広島県環境保全公社）平成２６年６月開業

左側の写真で右寄りの池状の地形が処分場施設です。広島港近くにあり、広島県内で発生した基準を満たす産業廃棄物（管理型廃棄物、安定型廃棄物）と一般廃棄物を受け入れています。処分場の面積は１８ヘクタールと広大で、廃棄物の埋立容量は１９０万㎥もあります。搬入される廃棄物の量は減少しており、開業から８年近く経っても埋立ての進み具合はまだ２０％程度だそうです。

廃棄物は飛散や悪臭のおそれがあるため、この処分場では受入から投入台船による水中への投入・散布まで一貫して屋内で作業を行い、主な施設には集塵機などを設置し大気中に放出させない工夫をしているとのことでした（災害廃棄物等の非飛散性廃棄物は、覆いのない専用投入台船で運び散布しているとのことです）。

コロナ禍で節分の行事も「豆まき」はなし

2/6　「鬼は外、福は内」と立春のころ邪気を祓う節分の行事。コロナ禍になるまで重松神社では、節分祭で大勢の参拝者を前に神楽殿から豆まきをしていました（昨年は中止でした）。

今年の節分祭は新型コロナのまん延防止等重点措置の期間中であったため、豆まきは行われず境内にテントを設置して、そこで三々五々参拝に訪れた人たちに福豆とお菓子が渡されました。

募集のお知らせ

木谷自治協では、令和４年度の「市民協働のまちづくり活動応援補助金」を活用する事業に応募し採用されました。、活動テーマは「木谷地域の歴史遺産・文化の継承活動を通したまちづくり」です。

つきましては、木谷や安芸津の歴史や文化に関心のある方々にお集まりいただき、定期的にその歴史や文化を学ぶ勉強会を開くとともに、歴史遺産の保存活動を行う計画を立てています。

また小・中学校の郷土学習を支援し、地域の歴史や文化を次の世代に引継ぐ契機にもしたいと考えています。年齢を問わず地域の歴史・文化に関心のある多くの人にお集まりいただきたいと思います。

お問合せは：木谷地域センター
電話／0846-45-0105

赤崎地区にある二馬手塩田遺構

コロナ禍で中止になった主な行事（2022 年１月～3 月）

1/25　ものづくりふれあい集会（木谷小児童との交流）
2/20　自主防災訓練（避難訓練）
3/21　友愛訪問（高齢者におはぎのプレゼント）
※　例年２月初めに行われる各地区の神明まつりも中止となりました。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和４年２月末現在	691	1491	729	762
令和３年２月末との比較	－10	－51	－24	－27